

仏に成る道は法華經のみ

布教部長 村松潮隆

絵 藤田由也

但し法華經計りこそ仏五味の譬を説きて、五時の教にあてて此經の勝れたる由を説き、
或は又已今当の三説の中に、仏になる道は法華經に及ぶ經なしと云ふ事は、正しき仏の
金言なり。然るに我經は法華經に勝れたり、我宗は法華宗に勝れたりと云はん人は、下
臘が上臘を凡下と下し、相伝の従者が主に敵対して我が下人なりと云はんが如し。何ぞ
大罪に行なはれざらんや。法華經より余經を下す事は人師の言にあらず、經文分明なり。
譬へば国王の万人に勝れたりとなりの、侍の凡下を下臘と云はんは何の禍かあるべきや。
此經は是仏の御本意なり。天台妙樂の正意なり。

【語句の意味】

但し^{ただ}して。それで。ただ。

計り^{ばか}こそ^ご・だけが。(こそ・は強調語)

五味^{ごみ}の譬^{たとえ}〓お釈迦様の教えが円熟して行く過程を

牛乳が熟成する五段階の過程に例えたこと。

① 乳味^{にゅうみ}(生乳)・② 酪味^{らくみ}(煮詰めた乳)・

③ 生酥味^{しゅうそみ}(ヨーグルト)・④ 熟酥味^{じゅくそみ}(バター)・⑤ 醍醐味^{だいごみ}(チーズ)の五味。

()内は明確な答えが無いので、私なりに当てはめ

ました。

五時の教^{ごじ}〓お釈迦様一代の説法を年代順の五期に

分類したものの。①華嚴経の時②阿含経の時

③方等経の時④般若経の時⑤法華経に続く

涅槃経が説かれた時、五時期の教え。

已^い今^{こん}当^{とう}の三説^{さんせつ}〓已^い説^{せつ}、今^{こん}説^{せつ}、当^{とう}説^{せつ}の三説^{さんせつ}。已^い説^{せつ}は、

法華経が説かれる已^い(以)前の四十数年間

に説かれた教え、今説は、法華経の前置き

として説かれた無量義経、当説は、法華経

の後に説かれた涅槃経のこと。

金言^{きんげん}なり〓模範となる格言です。仏陀の口から出

た不滅の教え。

然るに〓そうであるのに。それなのに。

我^{わが}経^{きょう}は〓自分が拠り所とするお経は。

法華経に勝れたり〓法華経より勝れている。

我^{わが}宗^{しゅう}は法華宗に勝れたり〓自分の宗派が法華宗よ

り勝れている。

云はん人は〓言う人は。言っている人は。

下^げ臘^{ろう}〓出家して日の浅い未熟な僧侶。身分の低

い者。

上^{じょう}臘^{ろう}〓修行を積んだ高僧。身分の高い人。

凡^{ぼん}下^げと下^{くだ}し〓身分の卑しい者と言う。見下す。

相伝^{そうでん}の従者^{じゅうざ}〓相伝譜代のこと。代々その主家に仕

える者。

主^{しゅ}に敵対^{てきたい}して〓主家主人に敵対して。

我^{わが}が下人^{げにん}なり〓自分に仕える者である。

云はんが如^{ごと}し〓言っているようなものである。



何ぞなになげ。どうして。

大罪だいざいに行なはれざらんやな大きな罪に問われ
ないのであるうか。

人師にんしの言にあらず祖師や宗祖の考えや言葉では
ない。

経きょう文もん分ぶん明めいなりな經典の文章によって、明らかで
ある。

勝れたりとなのりな勝れていると言いふらす。

凡下ぼんげ平凡な人。一般庶民。

下臘げらつと云いはんにな「地位の低い者」と言いつたとし
ても。

何の禍わざかあるべきやな何の過ちがあるでしようか。

御本意ごほんいなりな本ほん当とうの意い思し。真髓。

天台てんたい宗しゅうの第三祖だいさんそですが実質的には開祖かいそ。
天台宗の第三祖ですが実質的には開祖。

妙みょう楽らく大師だいし湛然たんねん。(七二一〜七八二年)中

国天台宗の第六祖。智顛の著書を多く解説

し広めた。

正しょうい意なり〓正しい意思。正しい考え。

【現代語にしてみる】

それで お釈迦様は、法華経に続いて説かれた涅槃経の中に乳味・酪味・生酥味・熟酥味・醍醐味（五味）の例えを説いて、法華経が醍醐味に当たる勝れた教えであると述べられました。

この例えに天台大師は、お釈迦様一代の説法を、年代順に華嚴経↓阿含経↓方等経↓般若経↓法華経・涅槃経の時（五時）を当てはめて法華経が最も勝れていることを説明されました。

あるいは妙法蓮華経法師品第十の中に已説・今説・当説（三説）を説いて、お釈迦様自身が「仏になる道は法華経だけである」と述べられています。

これは正にお釈迦様の金言であります。

それなのに自分の拠り所とするお経が法華経より勝れている。自分の宗派は、法華宗より勝れてい

ると言う人々は、身分の低い者が身分の高い人を卑しい人だと言い、主家に代々仕える従者が主人に敵対して「彼は私の僕です」と言っているようなものです。これは重大な罪ではないでしょうか。反対に法華経から他のお経を見下す事は、祖師や宗祖の考えやことばではなく、お釈迦様のおことばで、お経にはつきりと書かれています。

例えば国王が「自分は、民衆より身分が高い存在だ」と言い、侍が身分の低い者に「下郎」と言っても誰からも非難されないように、この法華経はお釈迦様の真髓が述べられた最高のお経ですし、天台大師も妙楽大師も正しいとされたお経なのです。

— 続く —

【注】「法華経ばかりこそ仏 五味の譬えを説きて」と五味が法華経に説かれている表現になっていますが実際には涅槃経です。これは同じ醍醐味の中であるから法華経〓涅槃経として扱われたと思われます。

【お詫び】先月号のタイトル「祖師の教えは 仏説ではない」の祖師を日蓮大聖人のことと思われた方もあろうかと思えます。この祖師は、日蓮大聖人から見た「諸宗派の祖師」です。まぎらわしい表現をお詫び申しあげます。